

ぎのわんの 歴史・文化遺産を 歩く 其の16

「キャンプ瑞慶覧⑨」

はじめに 今月も

キャンプ瑞慶覧(西
普天間住宅地区)で
市教育委員会が実
施している文化財
調査の内容と現段
階での成果速報と
して紹介します。

文化財調査の内容 今年度は、地表面に残
されている道貝(遺物)や湧泉・古墓(遺
構)、などの所在や現状を目視で確認する、
表面踏査を字安仁屋の緑地を中心に、実施
しております。

イシジャー 県道八一号線沿いに新たに
設置された新設ゲートの北側、字普天間・
字新城の両字間に位置する字安仁屋の緑
地は谷間となっており、イシジャーと呼ば
れています。普段は下流の琉球石灰岩と泥
岩の境目から水が流れ、上流は水が無い谷
ですが、大雨の際などには上流からも水が



イシジャーの谷底



崖面と風化した鍾乳石



崖面にある古墓

流れています。谷間の崖面の一部には、奥
行き数mの横穴がありその入口や内部に
は風化していますが鍾乳石が確認されま
す。詳細な年代は不明ですが、大昔イシ
ジャー一帯は洞穴で、その天井部崩れて
現在の谷間となった可能性があります。
表面踏査の成果 谷間の両側崖面などか
ら約七十基の古墓が確認されています。
僅かに亀甲墓も確認されていますが、大
部分が岩陰などを利用した岩陰墓や石灰
岩を掘り込んだ掘込墓となっています。
これらのうち、一基のみですが墓室内に
厨子甕が複数基安置されており、その蓋
には、十八世紀に相当する中国年号の文
字が確認されています。また、古墓のほか
に戦前まで使用していた畑の畝などが確
認されていることから字安仁屋の緑地
は、戦後大きな地形変化がなされていな
いと考えられます。

問合せ・文化課 ☎89314430

茶ぐわーゆんたく

127

いいイモ、ターナム

11月16日を沖縄県では、「いいイモの日」としています。イモは方言で「ナム」と呼ぶことから、標準語の「イ」と方言の「ム」をくっつけ、「イム」16の語呂合わせになっています。イモには、サツマイモ、紅イモ、ジャガイモ、里芋、田芋、ヤマイモなどいろんな種類があります。沖縄のイモと比べてみなさんが思い付くのはどれでしょうか? 宜野湾市でのイモと言えれば大山のターナム(田芋)を思い浮かべる方が多いかもしれません。そこで今回は、大山のターナムについて取り上げます。

ターナムはサトイモ科の植物で、和名はタイモ(田芋)もしくはミズイモ(水芋)です。水田で栽培されることから沖縄本島では方言でターナムと呼ばれています。栽培に適するのは、琉球石灰岩からの湧水が流れ込む湿地で、大山のターブクワ(水田)は主要な産地となっています。

ターナムは、植付けから収穫まで一年を要するので、ほとんどのターブクワでは、需要の多い旧盆と正月に合わせて植付けします。旧盆用は夏植え、正月用は春植えと、時期をずらしています。また、清明祭や生年祝い、その他の祝祭事用にも植付けをしているターブクワがあり、年間を通して収穫されています。ターナムは親芋の周りに小芋がたくさんつくことから、子孫繁

栄の食材とされ、お祝い事には欠かせない縁起物です。

ターナムを使った料理は、ジュシーや天ぷら、田芋パイなど多種多様です。また、方言で「ムジ」と呼ぶターナムの茎を使った「ムジの汁」も多くの人に好まれる一品です。カリウムやカルシウム、鉄分、ビタミンAやCなど、栄養成分が豊富で体に良いターナムをぜひこの機会に食べて、これから来る冬に備えてみてはいかがでしょうか。



▲ターナム



▲大山のターブクワ



▲ターナムを使った田芋パイ

『宜野湾市史』への問合せ
文化課 市史編集係(市立博物館内)
☎870-9317